
幸三

柳真

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸三

【著者名】

柳真

N3279F

【あらすじ】

駅の階段に捨ててあった大量の馬券。その背景。

神奈川の日吉という駅。

階段を上がっていると、途中に大量の馬券が捨ててあった。

三島幸三 38才

12年前に結婚、6年前に男の子が産まれ幸せな生活を送っていた。

建築会社に働いていて、役職もまあまあ、人望もそこそこ。

ただとても仕事熱心な上、バカがつく程の真面目な性格だった。

しかし2年前に会社が突然の倒産。

真面目な上、その会社に尽くしていた幸三にはあまりにも大きな転落で、何もする気にならなかつた。

しばらくして仕事もしない幸三は住宅貯金を手につけギャンブルと酒にハマつた。

もちろんそんな父親には付いていけず2人は離婚へ。

母親は幸三が元々は真面目な性格だったのと哀れな幸三に精一杯の氣を使い慰謝料はなし。

貯金は必要最低限の分だけを持ち母親は息子を連れて出ていった。

しかし母親の氣も無駄に終わり幸三は変わらず氣づけば貯金はなくなり借金は500万を越えた。

悪いとはわかつていたけどギャンブルも酒もやめる事ができず、ま

そこに底。

そんななか、ある日30万の現金書留が届いた。

元奥からだつた。

「再婚しました。」

とだけ書かれていた。

自己嫌悪に陥つた幸三。

その上、ギャンブルに依存しすぎてた幸三は、膨大な借金を前に30万は小さすぎると考えてしまつ。

そんな時、幸三に一本の電話が入つた。

「間違いなく当てるレースがある。」

大体倍率は20倍。

元奥からの30万全額を賭ければ借金は消える。

しかもしもハズレたら…

さすがにギャンブル中毒の幸二とはいってそのお金を使つのは到底思つた。

しかし…

結局幸二はその話には乗らなかつた。

ここが自分の転機。

30万を元にしつかり仕事に就いて借金を地道に返していく事を心に決めた。

すぐには無理かもしけないけど変わらなきゃいけないと。

奇跡を呼ぶ天使の贈り物、
万物は流転する。

幸三は元奥からの30万を天使からの贈り物と考え、自分も変わらなきやいけない、何事も変わっていくのだと考えた。

後の幸三の友人はこう語った。

彼を見ているといつかは自分も変わらなきやいけない、人の気持ち
は変わっていくものだと。

日吉駅に捨ててあつた馬券。

世の中には幸福も不幸もない。
ただ、考え方でどうにでもなるのだ。

from シークスピア

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3279f/>

幸三

2010年10月12日01時48分発行